

## “年男”の抱負



(株)御船組  
御船 善弘



新年明けましておめでとうございます。

年男ということで原稿の依頼をうけ、僭越ですが抱負を書かせていただきます。

今年の抱負の前に昨々がどんな一年だったかを振り返ると、西日本の大雨、北海道での竜巻などの自然災害や、悪質飲酒運転事故多発、高等学校等の単位の偽装報告などの不正隠蔽事件、いじめ自殺事件など暗くなるニュースが多かったように思われます。特に災害に関しては、出雲でも人命が奪われるなど非常に悲しい一年でした。

都市圏では再開発事業・マンションブームなど好景気が続き、いざなぎ景気を越えたなどのニュースがしばしば聞かれますが、その恩恵は地方にまでは波及せず地元経済事情は相変わらずの厳しい一年ではなかったかと思えます。その中でも北海道夕張市の財政破綻などのニュースは今後も地方にとっては非常に厳しい財政状況が続くことを警告しているかのように考えられます。

年末には連日ニュースで談合事件が取りざたされ、建設業界に対する世間の厳しい評価や世論があるように報道されています。建設業界に対する不信感を取り払い信頼を取り戻す為、われわれ一人一人が襟を正して社会に貢献し、お客様によるこぼれる仕事をしていかなければいけないのではないのでしょうか。そういった意味でも今年は注目される大切な一年になるように思われます。

今年の抱負ですが、チャレンジという気持ちをもって一日一日を価値あるものにしていけたらと強く信じているところです。日々を大切にし有効な24時間にできるような努力していきたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ今年抱負と致します。



## 韓国研修旅行に参加して

経営改善研究委員  
山根 強

平成18年10月15日～17日の日程で実施された韓国の研修旅行に参加させて頂きました。私は本年度から経営改善研究委員会に入れて頂き、初めての事業ということもありとても楽しみにしていました。しかし、出発の数日前に北朝鮮のミサイル発射問題があり「むこうにいつとなかいに戦争が始まって帰られんようになったらどげすーだ。」などという、いらん心配もしながら出発しました。

仁川空港へ降り立った後、バスでソウル市内へ入り、『景福宮』という王宮を観光しました。その後免税店へ買い物に行き、お楽しみの夕食は焼肉と眞露でとてもにぎやかな夕食会でした。やはり韓国の焼肉はうまい！

2日目はソウル駅から大田（テジョン）までの約167kmをKTX（高速鉄道）に乗って移動しました。所要時間は約50分。車内にはモニターがついており現在の時速が常に表示されていましたが、最高時速は302km/h!! それでもそんなにスピードが出ている感じはなく、揺れもほとんどありませんでした。また、新幹線などはトンネルに入ると耳が「ツン」としますがKTXはそれが全くなかったので、あとで調べてみると気圧を調整する装置が付いているからだそうです。座席もとてもゆったりしており、日本の新幹線よりもずっと快適でした。

大田に着いてからバスで宋里古墳群という古墳を見学に行きました。そこに来ている韓国の小学校の団体と一緒にになりました。言葉はわかりませんが、先生らしき人がとても熱心に説明をしている姿を見て韓国はとても歴史教育に力を入れているように感じました。日本も見習うべきだと思いました。

そのあとソウルに戻り南大門市場へ行きました。食品、衣類、雑貨など10,000軒もの店があるそうです。あまりの活気に圧倒されましたが、参加者の皆さんはそれぞれお店の人との交渉の末、お目当てのものを購入されていたようです。

とても楽しい旅行をさせて頂きました。次回もぜひ参加させて頂きたいと思います。やっぱり韓国の焼肉はうまい！



【景福宮】にて



KTXの車内にて

# たくさんの思い出と “心の財産”と

(社)鳥根県建設業協会出雲支部  
山名 久美子

新年 明けましておめでとうございます。

皆様には健やかに新春をお迎えのことと存じます。

さて、このたび一身上の都合により1月末をもって協会を退職させていただくことになりました。平成4年8月から、数えてみますと14年半、あっという間に過ぎ、「そんなに経っていたの…?」というのが実感です。

この間、3人の局長——通訳が必要なほど流暢な出雲弁を話される佐藤局長、ゴルフが元気の源！ゴルフをこよなく愛する松本局長、ゴルフはしないけどスキーの腕前は業界No.1・実は山男の大上局長——に仕え、それぞれ個性光る局長に事務局はいつも笑って（時には涙を流しながら…）いた気がします。

一番の大事業はなんといっても平成17年8月の事務所移転でしょうか。真夏の炎天下での引越し作業は、本当に痩せる思いでした…(?)が、関係の皆様のおかげで真新しいきれいな事務所に移ることが出来、とても気持ちよく仕事をさせていただくことができました。そのほか青年部会設立や協会50周年のハワイ旅行、全国一斉のテレビ講座開講などなど、数え切れない事業の中でたくさんの思い出をいただきました。

また、協会事務局という、一般の会社とは少し違った環境においてたくさんの人に出会えたこと、また“人と人との繋がり”の大切さを学べたことは何よりの財産となりました。私は4月から神戸市へ転居することになりますが、この“財産”を心に刻んで新しい土地でのスタートを切りたいと思っております。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご繁栄を心よりお祈り致します。そして、支部長はじめ会員の皆様には本当にお世話になりました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

ありがとうございました。



## 編 集 後 記

2006年7月16日～19日に鳥根県東部を襲った「平成18年7月豪雨」は34年ぶりの大雨で、死者4名・行方不明者1名等尊い命が犠牲となり、47年災に近い被害をもたらす結果となりました。県全体の被害総額は約360億円、私達の暮らしている出雲でも約66億円近い被害でした。何百年に一度は大災害が襲ってくると聞いたことはありましたが、47年災以来となるとまだ34年しか経っていません。これも地球温暖化等の異常気象が原因なののでしょうか。現在、進められている斐伊川・神戸川の治水事業の完成が急がれます。

さて、この災害時に敏速・速やかに対応したのが、私たち建設業界です。洪水警報発令と同時に、被害を最小限におさえるために現場に入り、必死で作業を行いました。私たちはものづくりのプロであると同時に、地域を守るスペシャリストでもあります。今後もプロとして、またスペシャリストとして、必要でなければならぬ建設業界として、日々最新の技術力を身につける必要があると感じました。

最後に、34年前の災害では、当時私は3歳でした。何も記憶がありません。私たちの暮らす場所は、災害とは関係のないものだと思っていました。しかし、今回このような体験をしたことは非常に貴重でした。普段より災害に備える必要を改めて感じた体験でした。

経営改善研究委員 梅野 直宏